

佛心



真宗はお気軽？

今年の春、トロント仏教会では寺院の駐車場に7本の桜の木を植えました。来年の春にはコロナも落ち着いて、皆さんと花見をしながら法要ができればいいなと考えております。

帰宅時に桜の木を眺めながら帰っていると、何年か前に御門徒さんへ尋ねた質問を思い出しました。その質問とは、満開の桜と散っていく桜どちらが好きかというものでした。

日本では昔から満開に咲く桜よりも、散っていく桜に趣をおいていました。私自身も綺麗に咲き乱れる桜よりも、なぜだか、儂くも散っていく桜を眺める方が好きです。

禅宗の良寛和尚という僧侶は、「散る桜 残る桜も 散る桜」と仏教の教えである諸行無常を桜に例えて非常に美しく述べられています。

二〇二一年七月号

浄土真宗 本願寺派

トロント仏教会

詩を残されました。

これは私たちの儂くも尊いのちの有り様を論じております。明日があると思いついでいるのちは、いつ散るかもしれない桜のように儂いものである。夜に嵐が吹こうならば、その桜の花びらは一瞬で散ってしまい、もう見ることも触れることもできない。私たちのいのちもそのようなものだ。と、美しくも鋭く述べられた詩です。

たしかに桜の満開は見事な物です。目も心も惹かれてしまうものです。しかし、散る桜の花びらにも趣をおくのもいい風情だと思います。

さて、先月はオンライン飲み会といってコンピューターの画面越しに友人や知人とお酒を交わす会に参加しました。その会は、トロントに住む日本人の交流を深めようという企画でした。するとそこで、ある方から急に「浄土真宗はお気軽な宗派だよな。」と言われました（かなり酔っ払っていたように思えます）。その言葉を聞いたと

また、浄土真宗の宗祖である親鸞聖人は得度にあたり、「明日ありと思ふ心のあだ桜 夜半に嵐の吹けぬものは」との

き、浄土真宗の僧侶である私に直接それを言うのかとビックリしました。その発言に（良い意味で）興味が湧いたので、彼がなぜそのような思っているのか尋ねました。すると「浄土真宗は修行を積まずとも念仏だけで救われる教えであるから、何とも簡単な宗教だと思った。」との返答をいただきました。とても素直な考え方だと思います（しかも、あながち間違いではない）。ただ、一点気になることがあります。それは私の中で「修行なしの念仏のみで救われる教え」が「お気軽」とは全く繋がらないところでした。

彼のなかで「修行しなくても救われる教え」がお気軽ならば、「修行したら救われる教え」が立派なものだと捉えているようでした。この点にいたっては、私の考えは彼と真反対になってきます。「修行したら救われる」つまり、なにかしたら救われる、といった考え方は、まるで頑張ったらお駄賃がもらえる、頑張った分だけご褒美があるという、なんとも世俗的な感覚で宗教を捉えているようにしか思えませんでした。

またその「修行したら救われる」の言葉を言い換えれば、「修行しない（できない）者は救われない」になってしまいます。すると私を含

め多くの人が浄土に往生できません。なかには修行したくても日々の生活に追いまくられながら心に余裕を持って仏教の修行することがなかなか叶えられない人もいます。また、生まれながらにして厳しい修行に耐えることの出来ない者は、その時点で救いの対象外になってしまうでしょう。

そこで浄土真宗の教えを見てみますと、修行も何もできない私を知らしめるだけでなく、それどころか逆に己の感情と欲求に身を任せてしまう情けない私の姿がありありと見えてきます（これは大変厳しい賜りものです）。

実は私、疲労が重なって、三カ月ほど前からひどい腰痛を患い、急遽カイロプラクティックで治療してもらうはめになってしまいました（まだ8歳なのに情けない）。そんなときに頭をよぎるのは、休みたいなあ、なにか休むのに良い理由はないかなあ、臨終勤行が入りませんように、とさらに情けないことを考えるわけです。自身の弱さが見えるのは、このような身体的なことだけでなく、精神面での大きな負担でも同じことが言えます。誰か大切な人を亡くしたとき、私たちは自身の無力さと、どうしようもできない喪失感におそわれます。

そんなとき阿弥陀如来という仏様は、

「もつと頑張らないといけん！お前は修行が足りん！そんなんじや救われないぞ」と激励してくる仏様と違います。どんな衆生にも大いなる慈悲で側にいて下さる仏様だと聞かせていただきます。

怪我をし、病いを患い、歳を重ねたものに「お前は何一つ善徳を積んでこなかった！」とは言わない。そのままのあなたでいい。いや、そのままのあなたがいい。だからこそ私（法蔵菩薩）が、あなた（衆生）の代わりに修行を重ねて、そのままのあなたを救える仏様になる、との誓願を建立された仏様です。それ故に、私たち衆生のために五劫兆載永劫の修行を重ね、その誓願を成就し、六字の名号「南無阿弥陀仏」になられた仏様が阿弥陀如来なのです。

私たちの先人達は、臨終する間際、もがき苦しむなかでも、その手を合わせて、そのおはたらきに「なんとも忝く、なんとももつたいないことであるか・・・。南無阿弥陀仏。」念仏を称えられておりました。

このように仏様自身が私たち衆生のためにおはたらきになる教えを考えてみますと「浄土真宗はお気軽」という言葉はでてきま

せん。そこには、ただただ阿弥陀仏の大慈大悲のたじけなさに「南無阿弥陀仏」が口から溢れるばかりです。



合掌
駐在開教使 大内祐真

日本語法要のご案内

毎月第一と第三の日曜日（午後一時より）日本語での日曜法座をZoom配信にて行っております。ご参拝を希望される方は、トロント仏教会の事務所 tbc@tbc.on.ca まで参拝希望の旨をメールしていただければ、法要のご案内と一緒にzoomのリンクを送らせていただきます。

※zoomリンクは英語法座と同じものを使用しています。時間帯が異なるだけですので、日英両法座の参拝を希望される方も同じリンク先を使用してください。

在世自在王仏所
とけんしよぶつじょうどいん
観見諸仏浄土因
こくとんでんしぜんまく
国土人天之善悪

「・・・世自在王仏のみもとで、仏がたの浄土の成り立ちや、その国土や人間や神々の善し悪しを「ご覧」になって、」

『師の導き』

人生の中で、「師」と呼べる人に出会えることは、どれほど幸せなことでしょう。好きな「先生」はたくさんおられても、「師」と呼べる方は少ないものです。目の前におられるだけで、敬服からくる心地よい緊張感が味わわれ、しかもさりげない言葉の端々に人柄の温かみを感じて安らぎを与えられることもありま

す。自分の在り方や考え方に対して細々とした指導を受けなくとも、師のように成りたいと思うことこそが師の導きに気づかっているとということなのでしょう。

また、単に人格に傾倒したというだけでなく、師を通して現れてきた、今までの自分には見えなかった世界に出会えたという喜びが起きます。言うならば、師をそうさせている世界が、自分にもはたらいていたと感じることができた喜びです。

「世自在王仏」とは、法蔵菩薩の「師仏(師である仏)」です。浄土真宗でよくお勤めをする「光顔巍巍 威神無極、」という「

讚仏偈」は、法蔵菩薩が師仏である世自在王仏を讃えられたものです。その中で法蔵菩薩は、

「願わくは、私も仏となり、この世自在王仏のように迷いの人々をすべて救いさとりの世界に至らせた

願我作仏 斎聖法王 過度生死 靡不解脱」

と述べられ、

「たとえ自分がどのような苦難に身を沈めても(仮令身止 諸苦毒中)」必ずその願いを果たし遂げると決意されています。

師の仏は、法蔵菩薩の願いが尋常な決意でなされたものではないことに領かれ、他のあらゆる「仏がたの浄土の成り立ちや、その国土や人間や神々の善し悪しを」説かれ、そのありさまをお見せになります。師仏の前で(みもとで)、そのすべてを「ご覧になつ」た法蔵菩薩は、他の国土やその国土に往する人々の勝れたところや劣ったところを検討されます。そして、劣ったところを選び捨てられ、優れたところだけを選び取られて、この上ない完全な「さとりの世界」を建立しようとするのです。

このように、法蔵菩薩の師として世自在王仏が挙げられることは、師の仏のはたらきによって、つまりは師仏を通して示された「さとり」のはたらきによっていることを意味しているのです。

『ひらがらな正信偈…森田真円』より

キッズサンガからのお知らせ



この度、トロント仏教会ではキッズサンガ(子ども会)をオンラインで再開することとなりました。

毎月第二日曜日と第四日曜日の午前9:45からzoomにて行っています。

子どもを対象とした法要後には、親子で参加できるワークショップなどを開きます。 ※法要ならびにワークショップは英語で行います。

ご参加を希望される方は、kids.sanghatbc@gmail.com までご連絡ください。

キッズサンガグループよりZoomリンクを送らせていただきます。

盂蘭盆会法要（お盆）のご案内

※毎年行われているお盆期間によるお墓参りは、オンタリオ州の制限に基づき、皆さまの安全を確保するためMinisterとMinister's assistantsのみで行わさせていただきます

※初盆を含めお盆法要は、Zoom配信にて勤修させていただきます。

日程：2021年7月10日（土） 午前10時（初盆）
午後2時（初盆）
午後7時（JCCC盆踊り）

2021年7月11日（日） 午前11時（盂蘭盆会）
午後1時（盂蘭盆会）

初盆法要ならびに盂蘭盆会法要にご参拝される方は、当寺院の事務所< tbc@tbc.on.ca >まで参拝希望の旨を名前とともにご連絡下さい。※JCCC盆踊りに関しましてのお問合せは、JCCCまで宜しくお願い致します。



今年はカルガリー仏教会で2008年～2019年の間、開教使をされていたジェームズ・マーティン先生をトロント仏教会の盂蘭盆会法要に招いてご法話をいただきます。ジェームズ開教使は、マニトバのご出身で1979年にカルガリーへ移されました。タイやカンボジア、ベトナムなどの東南アジア地方で仏教に出会い、カナダに戻ってからはカルガリー仏教会で開教使をしていた生田先生(グラント先生の父)の指導のもと、2003年に得度を取得しました。その後もカルガリー仏教会で

尽力され2007年に開教使として着任されました。

大変ユーモアのある先生で、柔らかい口調で優しく仏さまの教えを説いて下さる方です。是非ともご家族そろってご参拝下さいませ。